

ひろしま 郷土資料館 だより

平成23年(2011)11月

第82号

歴史と暮らしの赤れんが博物館



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS

祝！旧宇品陸軍糧秣支廠缶詰工場竣工100年



(現在の様子)



内山滋氏提供

この写真の建物、どこかで見覚えのあるような、ないような・・・？

そうです。実はこれ、現在広島市郷土資料館となっているレンガ造り建物の南側玄関付近のかつてのたたずまいです。撮影年代は昭和15～17年(1940～1942)ころで、日本が太平洋戦争に突入する前後の混とした時代の姿を今に伝える貴重な記録です。

当館の建物は、もともと旧宇品陸軍糧秣支廠の缶詰工場として建てられたものです。完成は明治44年(1911)、今年ちょうど百歳の節目を迎えました。この一世紀の間に、建物はさまざまな遍歴をたどります。機械類の疎開、原爆被災、廃墟、そして博物館としての再出発。この建物の歴史をたどることで、宇品地区を含めたわたしたちの郷土・広島歩みについて改めて振り返ってみよう、そのような思いから企画展「旧宇品陸軍糧秣支廠100年」を開催しました。

(2ページに続きます)



ひろしま郷土資料館だより

平成23年度前半（4月～9月）に実施した事業から

企画展「旧宇品陸軍糧秣支廠100年」 2011.6/4～7/18



展示ガイドの様子

「似島戦争遺跡めぐり」にて
弾薬庫跡そばに残る歩哨所跡。
なかなかモダンです。



戦前、広島市は「軍都」と呼ばれていました。市域には旧陸軍関連のさまざまな施設が集中して設けられ、軍人・軍属だけでなく商工業者や労働者層など多くの人が集まって活況を呈するとともに、都市計画も軍事面主導で進められていきました。当館の建物の前身である旧宇品陸軍糧秣支廠（缶詰工場）も、そうした軍都化の流れの中で設けられた軍需施設の一つです。

今回の展示では、糧秣支廠缶詰工場建物の歩みを軸に置きつつ、「Ⅰ宇品築港と軍都へのあゆみ」「Ⅱ糧秣支廠のお仕事」「Ⅲ被爆、その後」「Ⅳレンガの美」の4コーナーを設定し、古写真・古文書・絵図・道具類等の現物資料と解説パネルの計約200点を展示しました。コーナーⅠでは、当館の立地する南区宇品地区の埋め立てと宇品港の築港工事から説きおこし、続いて日清・日露戦争を契機に宇品地区一帯に軍需施設が集中し、「軍都」の一翼を形成していった流れを説明しました。Ⅱでは、軍用牛肉缶詰の生産を中心とした糧秣支廠内での作業風景を写真で紹介するとともに、あわせて戦前まで市内で盛んであった民間業者による缶詰生産業についても取り上げました。続くⅢでは、被爆ののち民間食糧品工場として使われ、その後荒廃していた建物が、歴史的意義や建築意匠上の特

徴から広島市の重要有形文化財として保存され、内部は人文系博物館として再出発した流れを追いました。そしてⅣで市内に残るレンガ造り建物の意匠に着目し、当館の造形美の再認識を図りました。

展示準備を進める過程で、いくつかの研究課題が浮かび上がりました。一つは、糧秣支廠における軍馬用飼料の調達状況についてです。この件に関する資料はほとんど皆無と言っていい状況で、今後積極的に調査研究を深める必要があります。もう一つは、戦前の民間缶詰生産業の動向についての調査で、こちらは現在も当事者の方が何人かおられ、資料もある程度保管されて

いる状況です。調査研究次第では、今後企画展示として成果をまとめることができるかもしれません。

また関連事業として、“郷土・宇品をもっと知ってもらおう”という観点から、宇品沖に浮かぶ似島の戦跡を紹介する「似島戦争遺跡めぐり」と、宇品に残る大自然に触れる「元宇品原生林昆虫探し」の2本のフィールドワークを行いました。普段は見過ごしがちな郷土の姿を再発見する良い機会となり、好評でした。

当館は今、過去の100年間の紆余曲折を内に秘めつつ、新たな未来の100年を見据えて歩み始めているのです。

（稲坂恒宏）



「元宇品原生林昆虫探し」にて
昆虫学芸員の熱い解説にみなさん大満足！

企画展「広島県の遺跡を掘る」 2011.4/16～5/29

4月16日(土)～5月29日(日)に(財)広島市未来都市創造財団文化財課との共催で、企画展「広島県の遺跡を掘る」を開催しました。広島では旧石器時代から江戸時代まで数多くの遺跡が存在しており、発掘調査からも多くの成果が上がっています。それらの遺物や資料を展示することで、古代から現代にいたるまでの広島のあゆみをたどりました。小学校6年生がはじめて日本の古代について学習する時期でもあり、見学に訪れた小学生は本物の土器や石器を目の当たりにして歴史への興味を深めた様子でした。

今年度は最近の発掘調査の成果を紹介するコーナーを設けました。国道54号線可部バイパスの建設に先立ち、平成17年度から21年度にかけて行われた三入・大林地区の発掘調査からは、弥

生時代後期から古墳時代初頭の集落跡や集団墓地・古墳・山城跡などであるトンガ坊城遺跡(安佐北区可部町)出土のコシキ形土器や山陰系の土器など、さらに平成19年度から20年度にかけて発掘調査が行われた上ヶ原遺跡(安佐北区可部町)からは、線刻が施されたコシキ形土器を展示しました。また、平成21年に広島城跡上八丁堀地点から出土した金箔鯉瓦の複製品(広島城所蔵)と出土状況の写真をあわせて紹介しました。いずれも郷土資料館では初の展示ということもあり、来館者からもたいへん好評でした。

展示期間中の関連行事として、小学生対象の考古学関連の教室を実施しました。「はじめての考古学教室」では、本物の土器に触れたり発掘調査の

話を聞いたりして、考古学への関心を深めていました。「勾玉作り」「土器作り」「土偶ストラップ作り」の各教室では、古代人の生活に思いをめぐらせながらもの作りに取り組みました。教室終了後には個性豊かな作品と多くの笑顔が見られました。(牛黄著 豊)



見学風景

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」 2011.9/6～12/25

「ごんぎつね」は、小学校4年生の国語の教科書にも掲載されており、発表から80年近く経た現在も多くの人々に親しまれている作品です。

企画展「『ごんぎつね』が語る昔の暮らし」は、平成13年度に始まり、今では郷土資料館の秋の展示として、地域の方々を中心に定着してきました。この展示では、物語に登場する様々な場面を再現しながら、農村の人々の暮らしぶりを収蔵資料や写真を交えて紹介しており、展示期間中は社会科の学習の一環として多くの小学生が来館されます。展示されている道具について熱心にメモを取り、質問をする姿が見られ、「田舎のおじいちゃんとおばあちゃんの家に同じものがあって何かと思っていたけど、今日初めて何に使う道具かがわかった」といった声や、「昔の道具にはいろいろな工夫があることを知った」、「火縄銃が想像していたよりも長くて重そうだった」といった声が聞かれます。また、大人の来館者からは、「懐かしい」といった感想もいただきました。毎週日曜日の展示ガイドには、家族連れで来てくだ

さる方が非常に多く、親子で昔の暮らしについて学ばれていました。世代は違えど、多くの方の学習の場としてご活用いただいていることを嬉しく思います。

そのほか、関連事業として、「石臼で月見団子作り」、「紙芝居『ごんぎつね』の朗読とおはぎ作り」(紙芝居講師：フリーアナウンサー 桂幾子氏)を実施しました。いずれの教室も多くの方にご参加いただきました。



展示風景

「ごんぎつね」はフィクションの物語ですが、この展示を通して、物語としての「ごんぎつね」を味わうだけでなく、かつて確かに存在し、今も我々の生活に息づいている「昔の暮らし」をリアルなものとして感じていただけるのではないのでしょうか。今後も展示内容をさらに充実させ、ご来館いただいた方の良き学習の場、そして時には昔を懐かしむ場として活用していただけたらと思います。(古川 会梨)





ひろしま郷土資料館だより

イベント「おばけの夏休み」 2011.7/30～8/31

今年で4回目となる「おばけの夏休み」。おばけ屋敷を軸におばけをモチーフにした「夏休みかんたん工作」を開催するなど、郷土資料館の夏休みイベントとしてすっかり定着しました。おばけ屋敷は当館にある民具に親しんでもらうための演出として取り入れたものですが、お手頃(?)な恐怖感のせいか、子どもたちやご家族づれに大人気でした。リピーターも多く、「去年よりも怖かった」とか、「毎年楽しみにしている」というような声をたくさんいただきました。民具をはじめとした収蔵資料の活用、という

本来の目的から外れることなく、さらに恐怖を楽しんでいただけるよう工夫していきたいと思います。

(大室 謙二)



郷土資料館築100年記念
看板娘 れんがール



「ふわふわおばけ」作りの様子よ。みんな上手にできたかしら、うふっ。

夏休みかんたん工作

おばけをテーマにしたからくりおもちゃなどを作りました。

7月26日(火)	}	おばけののぼり人形	8月 2日(火)	}	からくりゼミのミイラ	8月11日(木)	}	くるくるキラリン棒
27日(水)			3日(水)			12日(金)		
7月28日(木)	}	からくり飛びだすおばけ	8月 4日(木)	}	おばけのしおり作り	8月16日(火)	}	光る！プラ板キーホルダー
29日(金)			5日(金)			8月17日(水)		
			8月 9日(火)	}	びっくりひっくりカラフル魚	8月18日(木)	}	フワフワおばけ
			10日(水)			8月19日(金)		

ナイトミュージアム 2011.8/7

8月7日(日)に開館時間を延長して、ナイトミュージアムを開催しました。2階講堂で行われた「不思議な科学実験ショー」では、暗闇を利用した炎や光の不思議を体感しました。

1階常設展示室では「ミニコンサート」(安芸区民文化センター協力)が行われており、ピアノと管楽器の三重奏が展示室の外まで流れてきて心を和ませました。館外で行われた「天体観望会」(こども文化科学館協力)では、曇り空のため、残念ながら土星や

夏の星座をはっきりと見ることはできませんでしたが、今では遠いものとなった夜の闇というものを体感するよい機会になったのではと思います。ろうそくの灯りで照らされる館内は不気味な雰囲気をかもしだしており、2階のおばけ屋敷も昼間以上に盛り上がっていました。

昔の生活や風景を感じられる機会として、これからも工夫をこらしていきたいと思います。(後藤 茉莉江)



不思議な科学実験ショーの様子。
みんな真剣に見入ってます！

教室事業

伝統的な物づくりや、昔ながらの遊びを体験する教室。幼児対象のものから大人向けのものまで、多彩な事業を行いました。

4月23日(土) はじめての考古学教室
4月29日(祝・金) 勾玉作り
4月30日(土) 勾玉作り
5月 1日(日) かしわもち作り
5月 7日(土) まゆ玉コサージュ作り
5月21日(土) 土器作り
5月28日(土) 土偶ストラップ作り

6月12日(日) 藍でハンカチ染め
6月17日(金) 大人の染色体験
6月18日(土) 似島戦争遺跡めぐり
6月19日(日) 藍でハンカチ染め
7月 2日(土) セタ飾り作り
7月18日(祝・月)
スタンプ染めの手ぬぐい作り

第 8 2 号

7月24日(日) 漆喰ボール作り
 7月30日(土) 折り染めのうちわ作り
 7月31日(日) 元宇品原生林昆虫探し
 8月13日(土) 勾玉作り
 14日(日) 勾玉作り
 8月21日(日)
 折り染めランプシェード作り

8月28日(日) 藍染めTシャツ作り
 9月10日(土) 月見団子作り
 9月23日(祝・金)
 紙芝居とおはぎ作り

右の写真: 藍染めTシャツ作りの様子



その他の事業・館外活動など

館外での講座、工作教室での指導などの記録です。なお、今年度も「ひろしま歴史探検隊」(郷土資料館で活動しているボランティアグループ)の皆さんに様々な教室事業で活躍していただいています。

4月30日(土)
 住宅展示場「こころ」ふれあい体験コーナーで「ビュンビュン風船」
 5月3日(祝・火)・4日(祝・水)・5日(祝・木)
 フラワーフェスティバルで「かんたんからくりコイのぼり」
 5月15日(日)
 西区図書館 子ども読書まつりで「ハンカチを染めてみよう」

5月22日(日)
 ひろしま歴史探検隊研修会で「藍染めハンカチ」
 5月28日(土)
 広島城メモリアルデーで「かんたんのぼり人形」
 6月5日(日)
 広島電鉄路面電車まつりで「からくりおもちゃのぼり! 路面電車づくり」
 7月21日(木)~24日(日)
 アステールプラザ「夏休みこども企画展 おばけといっしょにあそびましょっ!」でイベント補助
 8月 6日(土)
 三滝少年自然の家で、広島市こども文化科学館主催事業における無線技術指導補助

8月 6日(土)
 郷土資料館内で被爆建物案内
 8月20日(土)
 広島県立歴史民俗資料館で平成23年度第3回ふどきの丘体験教室「藍染めに挑戦しよう」
 8月24日(水)
 安芸区民文化センターで文化教養講座



フラワーフェスティバルの様子

博物館実習・インターンシップ

【インターンシップ】

今年も夏休み期間を中心に大学5校・高等学校1校、11人のインターンシップ生を受け入れました。主に「おばけの夏休み」において、おばけ屋敷の設営・管理、かんたん工作の指導にあたってもらいました。中には普段は未来のエンジニアとして勉強している生徒さんもあり、畑違いの事に面喰っている場面も見られました。しかし、お客さんとの触れ合いという部分は、どんな仕事でも直面することであり、みなさん熱心に取り組んでおられ

ました。自分に役立つ何かを一つでも掴んでいてくれたら良いと思います。

【博物館実習】

博物館で勤務する学芸員資格修得のための実習を今年も多く受け入れました。6月に3校が施設見学実習を行い、8月2日~9日までは5名が館務実習を行いました。館務実習においては、学芸員としての基礎技能に関する講習と、イベント・教室事業、原爆の日に行った被爆建物ガイド等に従事していただきました。大変熱心で、実習

生さんだけではなく、資料館職員の方も大変有意義な時間を過ごすことができました。(本田 美和子)



工作指導中のインターンシップ生

【インターンシップ】

7月27日(水)~29日(金)
 広島市立広島工業高等学校 2名
 8月10日(水)~14日(日)
 広島国際大学 2名・比治山大学 1名
 8月16日(火)~20日(土)
 近畿大学 3名・県立広島大学 1名
 8月23日(火)~27日(土)
 安田女子大学 1名

【博物館実習など】

5月12日(木)
 文教女子大学に講師派遣
 5月16日(月)・30日(月)
 安田女子大学に講師派遣
 6月11日(土)
 広島文教女子大学 博物館見学実習
 6月16日(木)
 県立広島大学 博物館見学実習

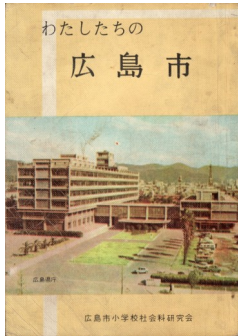
6月21日(火)
 安田女子大学 博物館見学実習
 6月22日(水)
 安田女子大学 博物館見学実習
 6月25日(土)
 安田女子大学 シンポジウム(学芸員の業務について)学芸員派遣
 8月2日(火)~9日(火)
 博物館館務実習



ひろしま郷土資料館だより

寄贈資料 (平成23年4月～9月受入分)

ご寄贈いただいたみなさまありがとうございました。



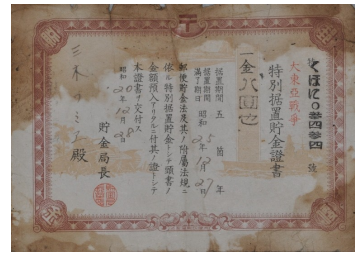
④『わたしたちの広島市』
昭和39年度版



①左から「敷島漬」「牛肉やまと煮」「醬菜」



②「牛印ハイトリ紙」



③「特別据置貯金証書」
昭和20年12月28日

資料名	点数	寄贈者
弁当重箱	1	木村淳治
枰	2	
手拭い	2	
空缶①	3	
「罐詰検査請求簿」	1	岡本博元
蠅取紙②	1	
郵便貯金証書③	1	三木秀美
小学校教科書④	4 1	冠野美智子

平成23年度後半の企画展・イベント

企画展 「ごんぎつね」が語る昔の暮らし

【会期】9月6日(火)～12月25日(日)

童話「ごんぎつね」のストーリーを交えながら、作中に登場する昔の道具や情景を再現・展示して昔の人々の暮らしを紹介します。

特別展 「提げる」かざり～日本の粋は腰にあり～

【会期】10月1日(土)～11月6日(日)

かつて日本人の腰を飾った「提げる」かざりについて、印籠・煙草入れ・根付を中心に紹介します。

企画展 変わりゆく広島 ～大下隆雄写真展～

【会期】1月14日(土)～3月20日(祝・火)

昭和30年代からの南区域を中心とした風景・子ども・街並み等の写真から、高度成長期に激変する社会や生活様式を振り返ります。

平成23年度後半も新たな切り口の展示や楽しいイベントで皆さんをお迎えいたします。ご期待ください。

ひろしま郷土資料館だより 第82号

【編集・発行】

【発行年月日】

(財)広島市未来都市創造財団 広島市郷土資料館

平成23年(2011)11月30日

〒734-0015

広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL (082) 253-6771 / FAX (082) 253-6772

<http://www.hiroins-net.ne.jp/kyodo/>



広島市郷土資料館

HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS